

2004 年 梅子杯 総括コメント

予選審査員：ナカオシュンスケ

I. 予選審査の大前提

(ア) 予選審査員の役割

これまで多くの大会において、予選審査員というものは A4 一枚の Judging Sheet の中に 3 行程度のコメントを記すに過ぎず、各 Speaker はなぜ自分の Speech がこのように評価されたのかということを知ることができませんでした。これは、落選者と当選者の双方にとって不幸なことです。予選で惜しくも落選してしまった Speaker は、自分の Speech の弱みを最後まで知ることができずに、往々にして他の大会でも落選を重ねます。逆に、予選を通過した Speaker は自分の Speech の強みと弱みが何であるかを把握することができないので、ほとんどの場合、大して書き直しもしないで本選にのぞみます。しかし、こうした努力の怠りは、本選審査員にこき下ろされるという最悪の結末になって自分の身に降りかかるのです。

私は予選審査員の最大の存在意義は「教育」にあると思っています。落選してしまった者には次の大会で当選するためのヒントを与え、当選した者には優勝に向けて何を準備すべきかを認識させる。これこそが予選審査員の腕の見せ所であり、醍醐味であると思っています。

ただ、大変申し訳ないことに、今回の梅子杯では合計で 34 通もの応募があり、11 月は特に私の仕事が忙しくなり、十分満足のいくようなコメントを書いている時間がなかったのが事実です。そこで、予選を通過されて方の中で、追加でコメントをもらいたいという人がもしもいれば、下記のアドレスまで原稿を送ってくださいされば何とかご対応させていただこうと思っています。去年の梅子杯でも予選を通過した 6 名ほどから希望があり、適宜アドバイスをお送りしました。

ただし、今年はこの後も仕事の忙しさは続きますので、恐らくまともなコメントを返せるのは 2・3 人くらいだと思います。先着で受け付けますので、希望される方はお早めにお願いします。

- Mail to: drunkonspeech@infoseek.jp

なお、時間との関係から、残念ながら予選で落選してしまった方への追加コメントはできません。なぜ落選してしまったのか、その背景には何があるのかを知りたい方は、下記のアドレスで私の Speech に対する考え方を公開させていただいているので何かの参考にしてください。

<http://drunkonspeech.hp.infoseek.co.jp/>

II. 多くの Speech に共通して見られる欠点

(ア) English Check を受けてから応募する

今年は末川杯のコメントでも同じ事を言ったので、コメントの使いまわしになってしまいますが、梅子杯でもあまりひどかったのでもう一度指摘させてもらいます。Open 大会でも Joint 大会でも、大会に応募するからには事前にしっかりと English Check された原稿を送付してください。驚いたことに、今回の応募 Speech 全 34 通中、English Check されたと予想される原稿は、ものの 5・6 本しかありませんでした。

本選に選出される Speaker の数が 9 人程度であることを考えれば、English Check を受けて応募した人は、仮に内容が大したことなくとも、予選を通過する可能性がものすごく高くなることがわかるのではないでしょうか。

English Check を受けるということは、就職活動に例えてみれば、きっちりしたスーツに身を包んで面接にのぞむというものです。どんなに能力が高くても、穴だらけのジーンズと髪を金髪にして面接会場に来るような人は、間違いなく採用の対象とはなりません。原稿内容の良し悪し以前の問題として、必ず English Check は受けてから応募してください。

English Check を受ける際のポイントは、Native Speaker に見てもらわなくてはならないということです。帰国子女に見てもほとんど意味はありません。学校の先生、ESS の顧問、知り合いの留学生でも何でも良いですから、米国人や英国人に見てもらうことが肝心です。

仮に外国人の知り合いがいないのだとしたら、今英語を習っている日本人の教授に相談して、別の外国人の教授を紹介してもらうという手があります。いきなり手当たり次第に初対面の外国人に Check をお願いするのではなく、知り合いの先生を介してお願いをした方が、断られる確率がものすごく低くなります。

(イ) 怪しいデータのオンパレード

自分の主張を納得してもらうために、様々なデータや引用などを Speech に込めるることはとても大切なことです。しかし、そのデータが不明確なものだったり、出所が怪しいものであると、それが支えている主張がかえって信じられなくなってしまいます。

まず今回よく目に付いたのが出所不明のデータです。Speech の一番の確信である主張を支えているデータにもかかわらず、どんな機関が提供しているものなのかが全く示されていないのです。例えば、普段は聞いたこともないようなマニアックな病気に対して、「潜在的にこの病気に罹っている子供の数が全体の 20%以上もいる」というデータをぽんと出されたとしましょう。20%とというとかなり大きな数字ですから、もしそれが本当なら深刻な問題です。しかし、このデータは出所が不明なため、全く信用することができないです。

この、「信用されない」ということは非常に危険な状態です。なぜなら、一番大事な主張が怪しいデータに支えられているため、その後で展開される全ての主張が砂上の楼閣になってしまふからです。ですから、もしも本選 Judge がそのデータを信用できないと判断してしまったら、それで一貫の終わりです。本選 Judge は残りの Speech を意味のないものとみなしてしまうことでしょう。

また、データの中の数字が曖昧なまま放置されている例がたくさんありました。一番よくあるパターンが、「この数字は年々増えている（もしくは減っている）」というものです。これだけでは全く信用することができません。例えば、ある病気に罹っている人が全国民の 0.30% であって、それが翌年に 0.31% になったとしましょう。確かに数字は増えていますが、そもそも 0.30% というのが大きな数字なのか、また増加した率が 0.01% というのは深刻な事態なのかが疑問です。「年々増えている」という言葉だけでは、ひょっとしたら裏にこうした事情が隠されているかもしれないのです。

意地悪な Judge からしてみたら、データを明らかにしないのは、実態を粉飾するためなのではないかと思うことでしょう。ですから、下手にデータを隠すのではなくて、QA で突っ込まれても爆死しないように、データの中身をきちんと正確に開示することが大切だと思います。

(ウ)弱気な発言はいらない

Speech は、自分が徹底的に考え抜いて心から伝えたいと思っている事を聴衆に対して発言する場です。ですから、壇上に立って自分の主張を訴える時は自分の主張に自信を持っていなくてはなりません。しかし、今回の梅子杯では、どうも弱気な発言が目立ったので注意しておきます。

Speech を行っている本人自体が弱気になっている内容に対して、それを聞いている聴衆が納得することができるでしょうか。例えば、「偏見をなくさなくてはならない」と訴えている Speech の中に、「とは言っても、自分もたまに偏見を持ってしまうことがある」という逃げの言葉が隠されたり、「将来の仕事に対する明確なビジョンを持たなくてはならない」と言っているところに、「自分も将来何になりたいかはまだわからない」という、全く矛盾したことが書かれているのです。こんな Speech に共感することが出来るでしょうか。

こういった弱気な発言をしている人の多くは、実は非常に正直な人であることが多いのです。正直であるがゆえに、「まだまだ自分も未熟だということをちゃんと言っておかないといけないな」と思って余計なことを Speech に書いてしまうのです。しかし、正直なら良いかと言うと、そんなことは全くありません。

何度も言いますが、Speech は自分が本当に信じていることを聴衆に伝えるものです。自分が弱気になってしまうようなものなら、それを Speech にして伝えるべきではありません。もっとストレートな言い方をすると、そういう人には壇上に立つ資格がないのです。ですから、もっと自分の主張に自信が持てるよう、その Topic と真剣に向き合ってから Speech を応募してください。そうでなければ、聴衆にそっぽを向かれてしまうことは間違ひありません。

(エ)結論と仮説を混同してしまっている。

皆さんによくよく注意してもらいたいことの一つに、「結論と仮説は違う」ということがあります。今回の梅子杯では、私からしてみたら、「まだまだ仮説の段階」と感じられるものの多くが、Speaker からは「結論である」とされてその後の展開が進んでしまっているものが数多くありました。

例を挙げれば枚挙に暇がありません。例えば、「企業は発明報酬を『もらいすぎ』している」、「子供が非行に走る『一番の原因』は家庭にある」、「日本の受験戦争が無意味だという意見は『もっともだ』」などがそうです。普通に考えると、何をもって「もらいすぎ」、「一番の原因」、「もっともだ」と言っているのかをはっきりさせてもらいたいと思うのですが、Speaker の多くはそうした聴衆か

らの疑問を予想していないのか、それともわざと無視しているのか、発言の根拠を示さずにそのまま Speech を展開してしまっています。

このような Speech が予選審査で多く目に付くのは、その応募者本人の努力不足もさることながら、その人の所属する ESS やその上部団体連盟の教育に問題があることに起因していると言わざるを得ません。なぜなら、巷でよく言われている Flow Bashing なるものがしっかり行われているのであれば、仮説をあたかも結論のように扱ってしまっている Speech に対して、誰かが疑問を呈してあげてもおかしくないからです。

教育で本当に大事なことは、「わからないところはわからない」ときちんと指摘してあげて、「どうすればわかりやすくなるのか」を考えるきっかけを与えることです。ESS の中には、「みんなで仲良くキャンプに参加すればよい」、「何も言わないで肯定的なことだけ言ってあげるのが教育だ」という意見を持ったところが少なからずあると思います。しかし、それでは決して質の高いものは生まれません。今後教育を行う際は、「何をもってそういうことが言えるのか」ということを、もっと自由活発に指摘しあえる環境を作ることが何よりも大事だと思います。

(才)原因と反対の内容を述べているだけの提案が多すぎる

今回少なからずショックを受けたのは、馬鹿の一つ覚えのように、自分が分析している原因と正反対の提案だけを掲げている Speech が非常に多かったということです。例えば、「家族の会話が少ないから家庭内不和が生まれる」と言っている Speech において、「だからこそもっと家族の会話を行わなくてはならない」とだけ言って終わっているものが多いです。「会話が少ないので会話を多くしろ」とだけ言っても、何の効果もないことは皆さんお分かりでしょう。

本当に分析しなくてはならないのは、「何故、家族の会話が少なくなったのか」ということです。それを深く突き詰めていくことで根本原因を特定することができ、具体的な対応策を練ることができます。しかし、単純に原因と正反対のことを提案している人は、原因に対する追究がほとんどできていません。そのせいで、単純に反対のことしか言うことができないです。

根本原因を特定するために必要なことは、「何故？」という単語を自分の頭の中で繰り返すことです。最低でも 5 回は繰り返してください。そこまでやって挙がってきた原因是、問題の本質をついた根本原因である可能性がかなり高くなります。そして提案として発表することは、その根本原因に即した提案でなくてはなりません。そこまで考えると、提案もかなり具体性を帯び、聴衆の納得を得られる効果的なものになるのです。

III. おわりに

(ア) 今年一番の Prepared Speech を！

皆さんご存知の通り、梅子杯は12月に催される今年一年を締めくくる大会です。そして、既発表Speechでの出場を認めています。つまり、「今年最高のSpeechを最後に披露してもらいたい」という思いが主催者から込められているのだと思います。

梅子杯は昨年の冬に第一回大会を迎えたにもかかわらず、全国から大勢の名Speakerが押し寄せ、非常にレベルの高い戦いを繰り広げました。今年もきっと昨年以上にレベルの高いSpeechが熱戦を繰り広げる事を期待しています。

大会開催まであと1ヶ月近くもあります。1ヶ月あれば、いくらでもリライトができるし、デリバリーに打ち込む時間も山ほどあります。Q&Aに向けて想定問答集を作るにも十分な余力がまだまだ残されています。大会までの十分な準備期間は、梅子杯実行委員の皆さんのが本選出場者に対して贈ってくれたプレゼントなのです。

どうか皆さん、最後まであきらめないで頑張ってください。最後まであきらめないで頑張れば必ず結果はついてくるものです。途中で妥協してしまったら必ず後悔します。自分がSpeechに込めたメッセージを信じて、ぎりぎりまで自分を研ぎ澄ましてください。

皆さんのが今年最後の大会で最高のSpeechを発表してくれる事を期待しています。

長々とありがとうございました。

Speakers are not braver than anyone else.

They are just braver seven minutes longer on the stage.